2020年
ドット道東に
関わってくれる
人達の力を結集した

道東の
アンオフィシャル
ガイドブック
「.doto」は

dot

ぼくたちの
予想を超える
影響を与えた

沢山の
メディアに
出させて
もらったり

日本地域情報
コンテンツ大賞で
地方創生部門を
受賞したり

「.doto」との
出会いを
きっかけに
転職する人もいた

そして2021年
ぼくたちはこんな
ステートメントを
たてた

理想を
実現できる
道東にする

ガイドブックが
現在の点(ドット)
をつなぐなら

理想を
顕在化するための
未来の点も
つなぎたいと考え

「.doto」の第2弾
として
ビジョンブックを
作ることにした

.doto

ドット道東が
考える
理想の道東は

道東に住む人
関わる人
それぞれの理想が
実現してることだ

この本には
1000人の
「やりたいこと」
と

1000人の
「できること」
が書かれている

これは

道東の未来を
切り拓く
あなたへの
一冊です

1000人の理想をもとにした道東の未来

人口が減少する。温暖化が進む。産業が変わる。今までのやり方が通じない未来がすぐそこまで来ている。道東の未来は暗いのか。否。私たちには理想がある。1000人の理想は、道東の未来をつくる原動力になるはず ――――

このページでは20XX年の道東総合計画として、1000人の理想から未来の道東を想像してみました。「どんな未来になるのだろう」と読みながら「自分はどんな未来にしていきたいか」を考えてもらえるきっかけになるとうれしいです。

泊まれる森の美術館を創って世界と繋がりたい（[illegible]）
網走に「サブカルバー（集会所）」を根付かせる。（[illegible]）
農業の科学館をつくりたい！（[illegible]）

泊まれる森の美術館。農業の科学館。日本の一番東にあるサブカルバー。

一人ひとりがやりたいことを実現していますから、たくさんの「なにこれ！」という活動が増えています。きっとあなたの趣味に合う場所もあるでしょう。なければ、ぜひ作ってください。

先生と生徒の立場が対等な学校があったらいいな（[illegible]）
子供達の未来のために、大人の笑顔を増やしたい（[illegible]）
子どもたちと自然の中で創作がしたい（[illegible]）

2歳から学ぶ40歳や90歳から学ぶ22歳も。

誰もが、誰かの先生であり、生徒である。一方的に教えるのではなく、教え合い、学び合うなかで、知識を育む環境ができています。

農業の魅力を発信する（[illegible]）
農家ユーチューバー（[illegible]）
漁業の魅力を共有したい（[illegible]）

なりたい職業ランキングの1位を農家と漁師が争っています。

世界が注目する農業系YouTuberが誕生するなど、農家や漁師がどんどん新しいやり方に挑戦し、魅力を発信した結果、なりたい職業ランキングの1位を争う結果に。

道東に住み続けながら世界を股にかけたい（[illegible]）
道東を日本のベンチャー企業創出の中心地にする（[illegible]）
地元の若い経営者を応援したい（[illegible]）

スタートアップ from道東

事業を始めるときに、道東を選ぶ人が増えています。ここには自然が近くにある、食事がおいしい、すごしやすい、なにかに挑戦する人が多い、一次産業や観光業が盛ん、などなど。「ここだからできる」起業家が起業したい場所として、道東は選ばれています。

病気や障害を気にせずに大自然のなかで暮らす（[illegible]）
道東が車椅子でも来れる場所になってほしい！（[illegible]）
退職後は北海道に戻り、第二の人生を謳歌したい）（[illegible]）

老後の生活に道東を選ぶ人が増えています。

自動運転が広がり、インターネットが海の真ん中でも山の頂上でも使える社会で、不便なところがどんどんなくなっています。移動もしやすくなり、家にいても商品が届く。ユニバーサルデザインが広がり、住みやすい街ができています。

北海道を「働く選択肢」を広げる最前線に！（[illegible]）
道東に住みながら東京の仕事をする公務員になる（[illegible]）
色んな仕事を体験してみたい（[illegible]）

システムエンジニア兼 漁師

オンシーズンは海で、オフシーズンはパソコンの前で働く。そんなふうに、1つの職業だけでなく、自分のできること、得意なことを活かして、いろんな仕事に挑戦する人が増えています。

北海道を世界のHOKKAIDOにしたい！（[illegible]）
"わざわざ"来たくなるお店を目指します（[illegible]）
みんなに知床の楽しさをもっと伝えたい（[illegible]）

隣町の人が何度も来る。地球の裏側の人もたまに来る。

周りの町に愛される町が増えています。オホーツクの人が根室に遊びに行ったり、十勝の人が釧路に行く。そうやって、道東の中でたくさんの人が行き来することで、魅力が高まり、その結果地球の裏側に道東のファンがいたりもします。

北海道スペースポートと宇宙版シリコンバレーを！（[illegible]）
北海道スペースポートを世界の宇宙開発の聖地に！（[illegible]）
誰もが宇宙に手が届く未来をつくる（[illegible]）

宇宙が身近になりました。

ロケットが打ち上がる。道東出身の宇宙飛行士が誕生する。どんどん宇宙が身近になっていきます。空を見上げると「あそこに同級生がいて」「オレの同級生もいるよ」なんてこともあるかもしれません。

自分の好きなじぶんでいられるナナメの場を繋ぐ！（[illegible]）
道東に想いのある人たちの才能を掛け合わせて遊ぶ（[illegible]）
いつも友達のいる道東にしたい（[illegible]）

困ったときは一緒にご飯を食べよう。困ってなくても一緒に食べよう。

庭先でジンギスカンをしていたら、隣の人もやってきて。なぜか隣町の人が近くを通ったからとやってきて。そんなふうにどんどん人が増えていって、みんなでご飯を食べる。そんな今でもあるステキな時間は引き続き残っていきます。

離れていても地元に貢献したい（[illegible]）
大阪と道東で2拠点生活がしたい！！！（[illegible]）
地元に貢献したい（[illegible]）

「出ていく？戻る？」ではなく、どこでどう関わる？

人口は減っていますが、道東に関わる人が増えています。もともと出身地だった人も、縁もゆかりもないけれど、旅行してみて好きになる人もいる。一人ひとりがいろんな道東との関わりを持ちながら、生きています。

…だからできない、をぶっ壊す（[illegible]）
「ない」を「ある」に変える道東（[illegible]）
若者が夢を実現しまくる道東（[illegible]）

やりたいことは、言ってみる。

「じつはこんなことをやりたいと思っているんだ」という声がたくさん聞こえてきます。カフェをやりたい。寺子屋を開きたい。ジュエリーを作りたい……etc
やりたいことは声に出したら前進する。そう気が付いて、みんなが自分のやりたいことを人に話しています。

道東を誇りに感じて、暮らしていきたい（[illegible]）
道東での生活を楽しみたい、道東をもっと知りたい（[illegible]）
自分の好きなものの魅力を、訪れる人に伝えたい（[illegible]）

いいところだよ（ニヤリ）

道東を知らない人に、自分の地元を知らない人に「どんなところ？」と聞かれたとき。今は、つい「なにもないところだから」と謙遜する人が多くいます。でも未来はちょっとだけ変わっています。「いいところだよ（ニヤリ）」です。もしくは「普通かな（ニヤリ）」です。そう、変わったのは「（ニヤリ）」。自分の地元の好きな風景、食べ物、人、そんな幸せになるものを思い浮かべると、つい顔に出てしまうようです。

川北をつつきの森でライフをシェアする宿をやる（[illegible]）
助け合い支え合える社会へ（[illegible]）
誰でも相談しにくるおばあちゃんみたいになる（[illegible]）

経験はどんどんシェアする。

道東でなにかをするときに惜しげもなく、経験者や、周りの人が「そこまで教えてくれるんですか？」というところまで教えてくれます。みんな自分と同じ失敗はしてほしくないと思っていたり、一緒に業界を盛り上げたいと思っていたり。どんどんお互いのやってきたことをシェアし合いながら、技術やスキルを高めています。

道東のどこかで自分とみんなの居場所をつくりたい（[illegible]）
人とどんどん繋がって、仲間をたくさんつくりたい（[illegible]）
人×人×人×人×…（[illegible]）

「なんもなんも」が合言葉に。

「人に迷惑をかけないように」もステキだけど、試される大地に住んでいるのだから、迷惑をかける前提で支え合うのも良いと思いませんか。助け合い、支え合いながら、協力して生活する。「ありがとう」「なんもなんも」を合言葉につながる未来になっています。

野生の自然の中で生きる（[illegible]）
北海道の大自然の中で暮らしたい、働いてみたい（[illegible]）
地に足をつけて生きていく（[illegible]）

試される大地。

この地に立つと人は、生きてきた本質を北海道の大地によって試され、大地からの無言の言葉を体に刻み込む。北海道は自分で自分を磨くことのできる大地であり、大地が人としての在りようや、度量を問うてくれる。1998年のキャンペーンフレーズ「試される大地」はときを超え、その言葉の背景をきちんと理解され、もう一度広がっていく言葉になっています。

しがらみからの脱却（[illegible]）
ゆとりのある生活をしていきたい（[illegible]）
愛する猫と一緒に暮らす（[illegible]）

堂々と「あきらめる」

「時間は有限だから」。自分ができないことをあきらめることで、本当にやりたいことや、できることに集中して、自分の人生を豊かにする。「オレはこれをあきらめた！」「だからこれをやるんだ」と言う。そんな人が増えています。

「漁業のオープンプラットフォーム化」（[illegible]）
動画配信で道東が先進地に（[illegible]）
1次産業について少しでも知って欲しい（[illegible]）

一次産業×〇〇

新しい農法や作物に挑戦する人、ドローンを使う人、動画配信で自分たちの最先端の技術を伝える人。システムを活用し、農業や漁業などの一次産業はどんどん進化しています。今の農家や漁師が見たらアッと驚くでしょう。

大好きなマチで誰かの背中を押せる人になる！（[illegible]）
道東の方々の理想をシステム側からサポートする☆（[illegible]）
チャレンジする方が応援される地域に！（[illegible]）

2人目のダンサー増えています。

やりたいことをやろうとする人の背中をそっと押す人が増えています。「それいいね！」と言い、手伝おうとする。1人ではなにも起こらなくても、2人になると一気に物事が動いていく。その結果、やりたいことを言う人も増え、2人目のダンサーも増えていく。そんな循環が生まれています。

DOTO VISION | SHARE

自分が住んでいる地域を、自分が好きなあの光景を、伝えたい、広めたい。そんな理想を集めてみました。
自分の好きなことを多くの人に理解してもらえるだけでなんだか少し嬉しくなる。
あなたが気付づいていない道東の魅力を知るヒントがこのページには詰まっているかもしれません。

山本政重 NO. 0003
神奈川県出身／浜中町在住
会社員
shigesan1975jp

来たなら、皆に伝えたい！個人視点の地域の魅力
転勤で2020年4月、北海道浜中町へ。人生初の北海道在住に対し不安や心配でしたが、その地域の見所や魅力に感動。少しでも多くの方に、その魅力を伝えたいと思っています。

ABILITY 道東での生活体験談、地域の魅力発信について

藤井崇久 NO. 0002
岡山県出身／神奈川県在住
団体職員
takahisa.fujii

道東の魅力を日本中に広めたい
仕事で2年間釧路に住んだことがあり、道東が大好きになりました。観光地としてはもちろん、住む場所としても魅力的であることを発信していきたいです。

ABILITY 外部から見た道東の魅力を発信

ペンションぽらりす NO. 0001
東京都・埼玉県出身／弟子屈町在住
ペンション オーナー夫妻
Polaris.Hokkaido

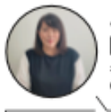
自分の好きなものの魅力を、訪れる人に伝えたい
憧れて移住した北海道は、住むほどにその素晴らしさを実感します。北海道で出会った、大好きな、大自然・満天の星・かわいい猫たち・優しい馬たちの魅力を、訪れたお客様に伝えてゆきたいと思います。

ABILITY 星空案内、乗馬ガイド、ペンション営業、etc.

北波智史 NO. 0006
京都府出身／帯広市在住
フォトグラファー
KITABA_Satoshi

道東の風景写真をスマホ壁紙にして世界に伝えたい
プロフォトグラファーとして働きながら、道東の風景を撮り、その魅力にハマりました。空の優しいグラデーションを生かした写真でスマホ壁紙を発信し続け、いつかこの地にギャラリーを設けたいです。

ABILITY 空の優しいグラデーションを生かした写真を撮ること



岸本純愛 NO. 0005
沖縄県出身／大樹町在住
在宅ワーカー
sumie.kishimoto.7

家族で道東を巡り、色々な出会いを紹介したい！
夫の転勤で２年前初めて道東に来ました。友達もおらず寂しく過ごしてましたが、気づけば沢山の方々との出会いや訪れた場所も増えました。まだ知らない道東を皆さんにお伝えしたい。

ABILITY おすすめの場所やお店の紹介をし一緒に飲みに行く！

中井大 NO. 0004
愛媛町出身／東京都在住
会社役員
https://nakai.biz/

世界が最初に知る日本、北海道、道東
道東を海外の方々が初めて触れる日本となる土地を目指します。自然も都会も春夏秋冬も仲間も、すべて道東にあります。道東が海外の幅広い文化と交わり新しい文化が生まれる土地となります。

ABILITY 道東から生まれた文化を、道内・内地にPRします

ワルボイ NO. 0009
美幌町出身／北見市在住
アマチュアビデオグラファー
WORLDBOYch

道東の素晴らしい景色と娘達の成長を映像に！
素晴らしい道東の景色とそこで生活し、成長していく娘達の姿を映像として残していきたい。映像を通じて道東の魅力や映像制作の楽しさを伝えていきたい。

ABILITY 映像を制作しYouTubeなどで発信

佐々木悠太 NO. 0008
札幌市出身／帯広市在住
経済産業省職員
100003405715023

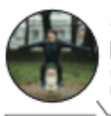
十勝・道東からまだ見ない価値や事業を発信したい
事業者支援施策に携わる中、十勝で暮らし、多くの刺激や価値観、夢をもらいました。道東で強い想いをもつ方々と繋がり、ともに取り組むことで、自分も地方から新しい価値をつくる一助となりたいです。

ABILITY 経産省の補助金など事業者支援施策の活用・申請等支援

角畠あさみ NO. 0007
空知郡出身／帯広市在住
ヨガ講師
kakuhataasami_tokachihokkaido

ロケーションヨガを全国に広める
昨年から地域だけでなく観光やワーケーションでこられた方に体感して頂ける機会が増えてきました。健康促進だけなく十勝を知り、十勝を好きになるツールになると確信しています。

ABILITY ヨガの提供と健康に関するお話、イベント企画と運営



小笠原浩平 NO. 0012
札幌市出身／釧路市在住
野生動物獣医師
rubberducklovers

ご当地ラバーダックを広げたい！
道東の新しいお土産として、オオワシやオジロワシなどの道東を代表する鳥をモチーフにしたご当地ラバーダックの製作を考えています。キャッチーな姿から彼らのことを考えるきっかけ作りをしたい！

ABILITY 鳥やラバーダックの魅力を伝える

吉田充 NO. 0011
標津町出身／札幌市在住
役場職員
YnetShibetsu標津

地元をたくさんの人に知って欲しい
地元を離れて初めて、地元の魅力に気づくとともに、いかに地元が知られていないかを実感しました。地元である道東地域や標津町について少しでも多くの人に知ってもらいたいと思っています。

ABILITY 自分にできることを全力で取り組みます！

坂野恭介 NO. 0010
北見市出身／北見市在住
会社員
AEDsamurai

AEDの大切さを発信して救命率向上を目指したい
『AEDを知る事は救命率向上につながります』その思いで、道東から全国までたくさんの方々に向けて、いままでにないAED認知度向上活動、AED普及活動をしていきます。道東からAEDで全国に。

ABILITY AEDの総合窓口・産業電気機器の修理

峯田清人 NO. 0016
山形県出身／別海町在住
会社員

道東を舞台に様々な情報やコンテンツを発信する
道東の雄大な大地に根を張り、様々な動物たちに支えられ、負荷の少ない生活を育んでいきたい。季節によって変わる表情に寄り添い、その美しさをたくさんの人に知ってもらうための発信をしていきたい。

ABILITY 持ち前の笑顔とバイタリティで道東を駆け回ること

みも NO. 0015
釧路市出身／釧路市在住
会社員

道東の良さをいっぱい知りたい＆知らせたい
地元だけではなく道東全域の魅力について色々と知りたいです。そして魅力を道内外、多くの人に伝えていき、それをきっかけに道東遊びに来て頂きたいと思ってます。

ABILITY SNSなどでの周知活動など

藤江陽子 NO. 0014
札幌市出身／長野県在住
ライター /編集者
ykit_trip

「道東」が通じる世界に
お気に入りの宿がきっかけで何度も足を運ぶうち、道東が大好きに。札幌に住んでいた時よりも、離れた今の方が詳しい。誰もが「ドウトウ」を「道東」とすぐに変換してくれる世界にしたい。

ABILITY 旅プラン作成、取材、編集、接客

川畑真帆 NO. 0019
京都府出身／帯広市在住
会社員

道東での「生きている」実感を多くの人に広めたい
道東の大自然に身を委ねたり、この地に根ざして生きる人たちと話したりする中で、日々「自分は今ここに生きている」と体感しています。それを沢山の人に伝え、実際に来て感じてほしいと思っています。

ABILITY 話を聞くこと、取材すること、伝えること

沢尻 NO. 0018
網走市出身／音更町在住
公務員

道東の街そのものを知ってもらいたい！
地域に住む人と訪れる人がみんな幸せになってくれるような街作りにいつか参加してみたいなと思っています。そのためにも街にあるいろんなものを見つけていきたいです。

ABILITY 風景や街の様子の写真をたくさん撮って残すこと

鈴木瑠華 NO. 0017
音更町出身／東京都在住
会社員
xuruka1114xx

道東の素晴らしさを伝えたい！
大学進学をきっかけに上京しましたが、道外の友達を連れて帰省すると、皆「北海道らしさがすごい！」「十勝最高！」と言ってくれるので、これからも地道に十勝ファンを増やしていきたいです！

ABILITY 旅行の相談に乗れます

yukka NO. 0022
標茶町出身／弟子屈町在住
介護福祉士

道東のユニバーサルデザインを探し、紹介したい
弟子屈を中心とした道東で、ユニバーサルデザインをみつけ、日本中に届けたい！

ABILITY 介護福祉士を活かした観光ガイド、運転、指文字など

廣岡俊光 NO. 0021
岡山県出身／札幌市在住
アナウンサー
Tossy826

わたしたちの道東を誇りに思える発信を
道東に関わるみんなが自分の住むまちやコミュニティを誇りに思える発信をしたいです。環境や人を誇れる気持ちを育む要素のひとつとして、信頼できる外からのまなざしとしての存在になれたら幸せです。

ABILITY きくこと、伝えること、つなぐこと

真野栄一 NO. 0020
愛知県出身／神奈川県在住
会社役員
eiichimano

釧路を日本有数の避暑地にしませんか
快適かどうかはさておき、せっかく、夏の気温が冷涼な釧路です。避暑地として知名度が上がるよう願っています。

ABILITY とりあえず夏期に長期滞在したい

さとうあおい NO. 0025
音更町出身／帯広市在住
会社員
a__o_i.14

十勝出身の人はここがおすすめ！
生まれてからずっと十勝にいますが、あまり良さを知りません。十勝に移住してきてくれた人たちは全力で楽しんでくれています。十勝で生まれ、十勝で過ごしている人たちに十勝の良さを伝えたいです。

ABILITY 十勝出身なのでずっと帯広に住んでる人の意見集め！

加藤誠 NO. 0024
山形県出身／東京都在住
団体職員
makoto.kato.7739

道東の魅力を伝えたい
全国転勤の会社に入って初めての勤務地が十勝・帯広。農業・観光のスケールの大きさ、何より人の温かさに、心が救われました。自分にできることで恩返しがしたいです！

ABILITY 山形出身のよそ者だからこそ感じる魅力を伝えたい！

めいめい NO. 0023
士別市上士別町出身／下川町在住
グラフィックデザイナー
ilmeimeii

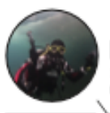
美味しいものを広げたい
この前近所農家さんの有機蕃茄がとっても美味しくて、でも隣町にも知られていなくて。そういう美味しいけど知られてないものを、デザインで広げるお手伝いがしたいです。

ABILITY アートディレクション、グラフィックデザイン

髙島千聖 NO. 0028
京都府出身／大阪府在住
会社員
100016138810217

つくる人と食べる人を繋ぎたい
関西からはとても遠く感じる北海道で、私たちが普段食べている物を作ってくれている人達に出会いました。生産者の方々の想いを消費者に届けるとともに、食べる人の笑顔をつくる人に届けたいです。

ABILITY どこへでも行って、美味しそうに食べて、発信すること



赤井美紅 NO. 0027
大阪府出身／東京都在住
現在無職
_m_o_chi39

道東にもっと行って良さをもっと知って広めたい
ただ「良いよ！」ではなく、自分が肌で感じることをもっと具体的に表現出来て、広めることが出来たらなと思います。

ABILITY 私の実体験をSNSやnoteでレポートすること

中西務 NO. 0026
北見市出身／北見市在住
北海道職員

出先で面識のない人を繋ぐ（ドット道東支援者他）
旅先でバイクやキャンピングカー同士が手を振り合いパーキングでは会話が始まるようにドット道東ステッカーを車に貼りガイドブックをダッシュボード上に置くなどして面識のない人を繋ぎたい。

ABILITY 近道など道路情報

竹内謙晋 NO. 0031
帯広市出身／芽室町在住
学生、デザイナー
ezo_shika

十勝の魅力を自分なりの方法で発信したい
進学先の札幌でアウトドアアクティビティの素晴らしさと地域創生について学んだ。幼い頃よく遊んだ芽室町で自転車、釣り、キャンプを中心とした楽しみ方を追求し、ガイドやショップを開業が目標。

ABILITY デザイン・釣り、サイクリングのガイド（修行中）

沼田正俊 NO. 0030
足寄町出身／足寄町在住
会社役員
masatoshi.numata.3

Hard Cider を足寄から発信する
昨年から進めている林檎のお酒Hard Cider を足寄から世界へ発信し、関係人口を増やす事で地域経済の底上げを図りたい。

ABILITY 農業経験から林檎を作る事

上野まりえ NO. 0029
帯広市出身／幕別町在住
専業主婦
churui0315

地元ならではのロケーションフォト・動画の発信
色んなカメラマンさんにロケーションフォトや動画を作成していただき、発信をしています。ドレスや着物、私服等に合わせて、それぞれのカメラマンさんによって全然違う雰囲気の写真が出来あがり、十勝の見え方の違いが面白く感じています。

ABILITY SNS発信等

DOTO VISION について

道東に暮らす人や関わりがある人、これから道東でなにかを始めたい人が、どんな理想を持っているのかを共有し合いたい。そんな思いのもと1013人の理想を集めました。誰かの理想を読んでくれた方が共感し合い、応援につながるツールとして―。
どんな理想も道東の未来の点（ドット）だから。未来につながる点（ドット）がここからはじまります。

.DOTO
NO. 0000
名前
出身地／居住地
関係・所属
SNSアカウントやURL

道東での「理想」を掲載しています
上記の理想の内容の理由やきっかけなどの説明を記入。

ABILITY それぞれの「できること」を記載

鈴木航 NO. 0013
北見市出身／斜里町在住
教員

教育を通して、オホーツクの魅力を伝えたい
オホーツクに生まれ育ち、オホーツクで働いてきました。オホーツクの魅力を子どもたちに伝えることを通して、オホーツクの発展に寄与したいと思えるような子どもを育てたいと思っています。

ABILITY おすすめの本の紹介

※掲載内容は2021年10月～2022年6月の内容です。現在と肩書やアカウント名などが異なっている場合があります。

網走市 マ・シマシマ
佐々木 愛美さん

「なにかをやりたい人のはじめの一歩を拾いたい」

絶望が変えた今と未来

Information

マ・シマシマ
網走市藻琴267
木曜定休（カフェは月曜も定休）

佐々木 愛美

マ・シマシマ オーナー。1983年室蘭市生まれ。札幌で会社員をしながらダンスなどの表現活動をしていたが、結婚後夫の恒雄さんの実家がある網走市へ2009年に移住。その後義父が購入した実家近くの古い住宅に住みはじめる。2015年、敷地内に住宅を新設。しばらくそのままだった元の住まいをマ・シマシマにする構想を開始。2021年5月にオープン。ヨガ講師としても活動している。

「ここにあった小さな窓からずーっと海を眺めていたんです」

7年前まで自宅だった家をリノベーションし、マ・シマシマを運営する佐々木さんは当時を懐かしむ。それは決して良い思い出ではない。移住した地で、想像とまるで違った暮らしに絶望していたのだ。何年も。毎日毎日涙を流していた。どん底だった。

今やまわりを照らすような明るさのある佐々木さんに、そんなバックグラウンドがあったなんて信じられないかもしれない。それでは彼女はどうやってその壁を乗り越え、店を営むことになったのだろうか。

夫の恒雄さんと結婚してすぐ、義父が体調を崩しはじめた。恒雄さんの父は漁師。継ぐことを決意し、移住を選んだ。佐々木さんにとっては急な展開だったが、移住前に初めて訪れた網走では実家でもてなされ、海を眺めたり砂浜を歩いたりしながらその後の新生活に夢を膨らませた。

「冬は漁が休みになるんです。私は札幌で働きながらダンスなどの表現活動をしていました。夫も絵を描いていたので、休漁中に今までの活動を続けられる。だったらありかなと。冬はいろんなことしたいねって」

流氷の前で踊ろう、とまで意気込んでいた。しかしそううまくはいかない。

「想像以上に受け入れてもらえませんでした。表現できる場所もなかったし、今までのように刺激をくれる人にどこへ行ったら会えるんだろうと思って。ずっと探していて。おもしろそうな場所があれば遠くでも行ってみたんですけど、結局そのときだけしかつながれないんですよね」

網走にもいつかそんな場ができるだろうと思っていた。誰かがいつかつくってくれるはずだ、と。まさか自分がつくる側になるとは思ってもみなかった。

改装にあたり絶対に譲れなかったという返り出した窓。自身の暗い過去を前に出していこうという気持ちがあった。

ある日突然、義父が実家近くの古い住宅と土地を購入。住んでほしいと頼まれ、市内中心部から引っ越した。築数十年で、中はボロボロだった。

「昔の人は塩害を気にして窓を小さくしていたんです。毎日外を見ながら、めちゃくちゃいい景色なのになんでこんなにちっちゃい窓なんだろうって。当時は友達もいないから、ずっと海を眺めていました」

子供が生まれ、空いていた敷地内に新居を建てた。子育てが落ち着いてくると、取り壊さずに放置していた住宅をどうするか考えはじめる。

「貸そうかという話もあったんですけど、それだとつまらないし、広がらないと思ったんです。だったら自分たちを含めていろんな人が好きなことをできる場所にしたらいいんじゃないって。美術館までいかないようなギャラリーもこの辺には全然なくて、それも寂しいことの一つだったので」

つくってくれる誰かがいないなら、やるしかない。夫と意見が一致し、急速に物事が進んでいった。建築家である兄の力も借り住宅に手を入れはじめ、店の構成も同時進行で詰めていく。コーヒースタンドをつけたいと思ったのは、小さな窓から何度も目にしていた光景が頭から離れなかったからだ。

「目の前に車を停めてみなさん写真を撮るんですよ。でもビュンビュン車が通るから、名残惜しそうに戻っていく。ここに停めていいのにって。もっとゆっくり海を見てほしいからコーヒーでも淹れてあげたいってずっと思っていたんです」

窓から眺めることしかできなかったあの頃よりも『マシに』なればいいとの思いから、店の名はマ・シマシマと決めた。『マシ』を増していく――「・」には持続の意味を込めた。

オープンすると予想以上にさまざまな人が訪れるようになる。今までまったく縁のなかったセラピストや占いができる人から輪がどんどん広がった。ヨガや味噌づくりのワークショップ、写経など多岐にわたるイベントによって、日々空間の色が変わる。もちろん絵や写真も展示した。めまぐるしい一年だった。裏を返すと。場がなかっただけで求めている人がたくさんいたということだろう。

「今までなにもやったことのない人がなにかやりたいってここでつぶやいてくれるんですよ。ボロって。活躍しているアーティストの絵だけを展示したいわけじゃない。なにかをやりたいと思っている人の最初の一歩を拾って。背中を押すのが私の役割かなって。私だってカフェで働いたこともなかったし、経営すらしたこともなかったので」

力強く語る佐々木さんの姿が眩しい。急に決まった移住に、義父が勝手に用意した物件――自らの意志と反したものがすべて軌跡になった。亡き義父へは感謝しかないという。

「海は毎日景色が変わるから、本当に飽きないんです。住んでみてここが大好きになりました」

同じ海を見ている。今も、昔も。マ・シマシマという船はこれからも前に前に進んでいくだろう。

リノベーションに どのくらい費用がかかりましたか？

新築の住宅が建つくらいはかかりました。お互いの貯蓄を使って思い切って改装したので、本当に大きな決断をしましたね。

ぶっちゃけ 黒字化できてるんですか？

建物まで となると難しいのですが、ありがたいことに建築だけではレンタル利用料で今のところ利益が出ています。

夢の途中

Manami Sasaki

CHALLENGE FOR OUR FUTURE

じゃないほう にとっての希望の島

磯田 憲一
Kenichi Isoda

対談

中西 拓郎
Takuro Nakanishi

2022年4月22日、札幌。この日札幌を訪れた理由は「遥かなる希望の島」という本の著者、磯田憲一さん（以下、磯田さん）に話を聞くためだ。「遥かなる希望の島」との出会いは遡ること2年前の冬。トット道東で制作した第一弾となる道東のアンオフィシャルガイドブック「toto」を制作中のときであった。津別町相生でシゲチャンランドという私設ミュージアムを主宰するシゲチャンこと大西重成さんから勧めていただいたことをきっかけに知った。「遥かなる希望の島」の著者である磯田さんは北海道知事まで務め上げた経歴を持つ元北海道庁の行政マン。そんな磯田さんが上梓された初のエッセイ集が本書である。僕らが昔から聞き馴染んでいる、「試される大地」という言葉が持つ本当の意味。そして磯田さんが見た「希望の島」には、今道東で生きる僕たちにとっても、とても大事なメッセージが込められているのだ。

text：Takuro Nakanishi
photo：Keisuke Harada,Seiryu Watanase
design：Satsuki Aosaka
cooperation：Ezomaru Kinubari,Fuko Takeda,Kazushige Nozawa

「試される大地」、その本当の意味

「試される大地」。この言葉は1998年に行われた「北海道イメージアップキャンペーン」のシンボルコピー。21世紀を前に、北海道の新しい生き方や在りようを示すために全国から公募し、6万通を超える応募のなかから選ばれたキャッチフレーズ。いまだに使われることもある北海道民にとって は賛否両論の深い言葉だ。磯田さんはこの「試される大地」の決定に携わった選考責任者であり、同時にキャンペーンを実行する責任者でもあった。この言葉には当時「これまで以上に試されてたまるか」という否定的な意見が数多く寄せられたらしい。厳しい自然のなかに佇む北海道民にとって、この地の大地で生きていくことがどれだけ過酷なことなのか。改めて言い当てられることに嫌悪感を抱く気持ちはよくわかるし、現にこの言葉は信じられないような北海道の気候や環境を揶揄して使われることがほとんどなのではないだろうか。「すごい雪。また、北海道試されてるよ（笑）」。そんなふうな捉え方も含めて、この言葉は20年以上も北海道民のなかで残りつづけている。

批判が渦巻くであろうことを承知のうえで、あえて選び取ったこの言葉。その決定自体が行政機関の「無難」であることを良しとする常識を超えることだった。それは、戦後長く変わることのなかった中央依存体質を克服し、新しい北海道の生き方、在り方を探っていこうという思いから出た取り組みであり、まさに自主自律の北海道づくりを目指すチャレンジだった。予想通り「試される大地」に対する賛否両論が北海道のすみずみに渦巻くことになったが、「内なる勇気や気概を自らに問う」という、この言葉の持つ普遍的な問いかけに対する理解、共感の輪がゆっくりと広がっていったという。予想もしないことだったが、この「試される大地」キャンペーンは、その年1998年の秋に発表された全日本広告連盟の「広告大賞」に選ばれることになった。

取材中に磯田さんは「いつの時代にも現在と未来の間に試される時代がある。どんな時代にも試される時代があるということを北海道が選び取ったということには希望がある」と語ってくれた。それはこの言葉が持つ本来の意味が一般的な解釈とまったく異なることを意味していて、著書のなかでも

「北の大地に佇むと、人としての在りようや度量が問われる、そんな自然は北海道にしかない」と書かれている。「試される大地」という言葉は「大地が試されている」のではなく「大地に自分自身が試されている」ことを意味しているのだ。

僕はこの言葉の本当の意味を知ったときに、20年も前に生まれたこの言葉が現代を生きる自分たちに向けられているものなのではないかと錯覚した。価値観や前提条件、当たり前とされていたことがことごとく変わっていく現代。そのなかで常に自分の在り方を模索する姿勢はまさに今回のビジョンブックのキーワードである「理想」そのものなのだ。自分の現在地と在り方を問い直す、その差分を埋めていくことが人生なのだと